

港湾

京都舞鶴港

京都舞鶴港は、湾口が狭く周囲が高い山で囲まれており、年間を通じ波が穏やかであることから天然の良港といわれています。こうした特徴を活かし、今日まで日本海側に面した国際港湾都市として栄えてきました。



▲最近の西港全景（近畿地方整備局舞鶴港湾事務所提供）

京都舞鶴港は、平成23年に日本海側の拠点港に選定され、その潜在能力に注目が集まる中、東アジアと関西地域をつなぐ玄関口「海の京都」としてPRし、物流だけではなく、クルーズ客船の誘致活動など本市の産業振興を推進してきました。



▲最近の東港全景（近畿地方整備局舞鶴港湾事務所提供）

平成26年「海フェスタ京都」を開催

海に親しむ環境づくりの推進や海への関心を喚起することを目的に、毎年、主要港湾都市で行われる「海フェスタ」を、舞鶴市を中心に、北部5市2町で開催しました。

7月19日から8月3日にかけて、

練習帆船「海王丸」や「日本丸」などの一般公開のほか、シンポジウム、京都府北部地域と海とのかかわりを紹介した企画展「海の総合展」、記念花火、サマーイルミネーションなど多彩な催しが繰り広げられました。



▲練習帆船「海王丸」のセイルドリル



▲秋篠宮同妃両殿下がご訪問

築港100周年を迎え 帆船「日本丸」が初寄港

平成25年に京都舞鶴港は、西港第1ふ頭が大正2年に竣工してから100周年を迎えました。この間、軍港や貿易港として栄え、今では関西圏の海の玄関口として活躍。

築港100周年の節目の年の7月26日～30日に、船を操る船員を育成する練習帆船「日本丸」が寄港しました。寄港中には、一般公開とシップスクールが実施されました。



▲巡視船「だいせん」の一般公開



▲記念式典



▲海の総合展

◀記念花火



▲シップスクール

◀日本丸

舞鶴国際ふ頭第2バース整備とⅡ期整備着手

令和4年、京都舞鶴港の物流機能の向上と京都府北部地域の発展に向け、舞鶴国際ふ頭の第2バース整備とⅡ期整備が着手されました。国による岸壁を延長する第2

バース（水深12m、延長210m）の整備と、京都府による護岸整備及びふ頭用地等の埋立造成（面積12ha）が行われます。



▲整備範囲等を表した写真



▲コンテナ船とバルク船（ばら積み船）が同時に着岸する舞鶴国際ふ頭



フェリーターミナルとあかしあ



昭和45年8月、舞鶴・敦賀～小樽間に「すずらん丸」が就航。市長をはじめ約2,000人の市民が出迎え、涙を浮かべて喜び人もいたという。



舞鶴・小樽間のフェリーを運航する新日本海フェリーは、昭和45年8月に第一船「すずらん丸」が就航し、令和2年で50年を迎えました。
日本海特有の冬の悪天候など

課題も多く、決して順風満帆ではなかった日本海側初の長距離フェリーの航路開拓は、新日本海フェリーの熱意と舞鶴市の後押しにより実現したものでした。

新日本海フェリー 就航50周年

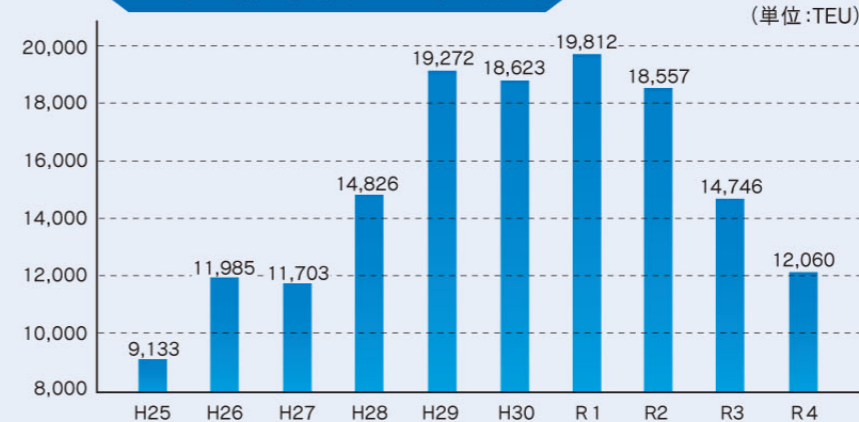
貨物量の大幅増加

京都舞鶴港は、国際物流ターミナル「舞鶴国際ふ頭」を中心に石炭や中古車、食料品、重機用部品などを扱っており、10年連続で1,000万トンを超えました。中でも、衣類、紙・パルプ、産業機械、食品など多種多様な貨物を詰めて運ぶコンテナ貨物の取り扱いが、令和元年に過去最高の19,812TEU（外買）を記録し、国際物流の拠点としての役割が増大しています。

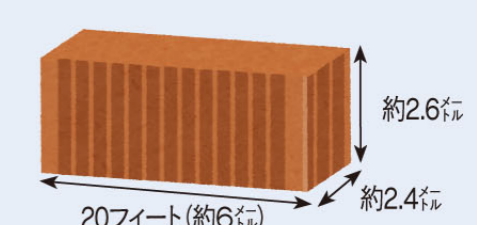


▲コンテナ船

コンテナ数の推移（空コンテナ含む）



TEU…長さ20フィートコンテナを基準(1TEU)とするコンテナの取り扱い個数の単位

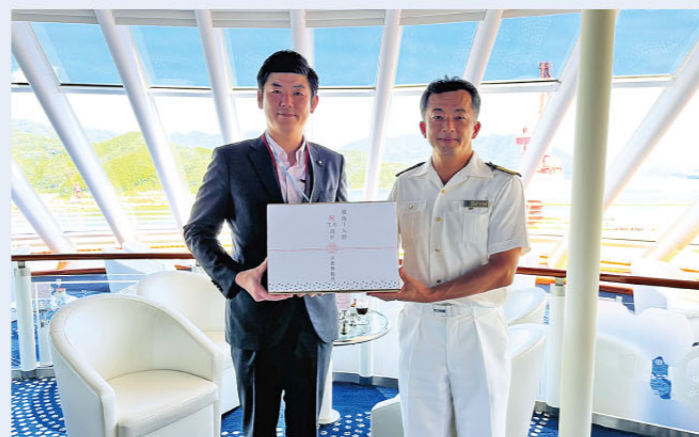
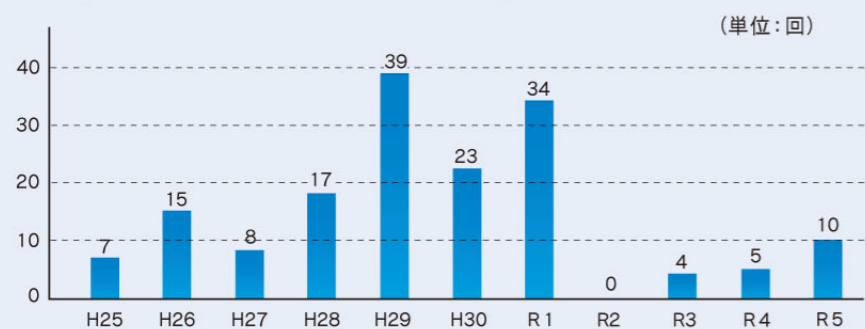




新旅客ターミナル「京都舞鶴港うみとびら」を整備

令和3年京都府では、旅客の受入機能強化を図るため、西港第2ふ頭に、貨物上屋を旅客ターミナルに改修し、新旅客ターミナル「京都舞鶴港うみとびら」の供用を開始しました。翌年には国土交通省が実施する登録制度「みなとオアシス」に、本市の西港を中心としたエリアが「みなとオアシス京都舞鶴うみとびら」として登録されました。

京都舞鶴港クルーズ船寄港回数



▲「飛鳥」初寄港30周年を記念して、鴨田市長より記念品を贈呈（令和5年9月「飛鳥II」寄港時）

クルーズ船コロナ対策徹底し入港

令和2年は、新型コロナウイルス感染症の影響で、予定されていた30回の寄港は全てキャンセルとなり、日本では外国のクルーズ船の運航が中断されるなど、港の賑わいに大きな影響を与えました。

京都舞鶴港では、徹底した感染症対策を講じて、国内クルーズは令和3年4月から、国際クルーズは令和5年4月から再開されており、以前のような港の賑わいを取り戻すための取り組みを進めています。



京都舞鶴港がクルーズ・オブ・ザ・イヤー2013を受賞

地域をあげての京都舞鶴港のおもてなしの取り組みが高く評価され、「クルーズ・オブ・ザ・イヤー2013」（主催：（一社）日本外航客船協会「クルーズ・オブ・ザ・イヤー2013実行委員会」）の特別賞を受賞しました。



▲ツアーで田辺城を訪れるクルーズ客



▲吹奏楽の演奏でクルーズ船を見送り



▲書道パフォーマンスでおもてなし（東舞鶴高校書道部）

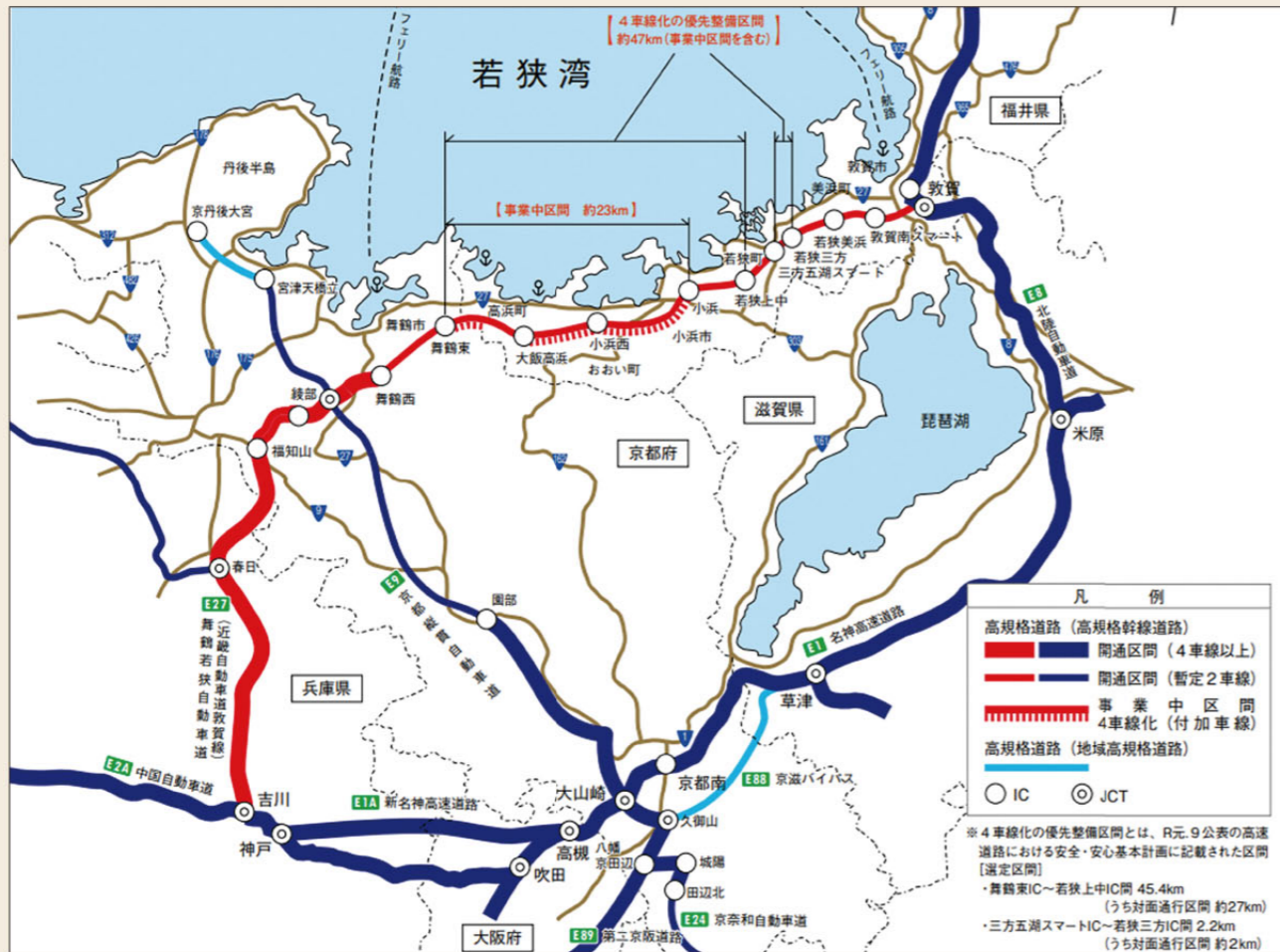
クルーズ船ぞくぞく入港

京都舞鶴港では、平成25年に初めて外国クルーズ客船を受入れて以来、年間入港回数は令和元年まで順調に推移し、令和元年のクルーズ客船による来訪者は、過去最高の8万7,900人となりました。

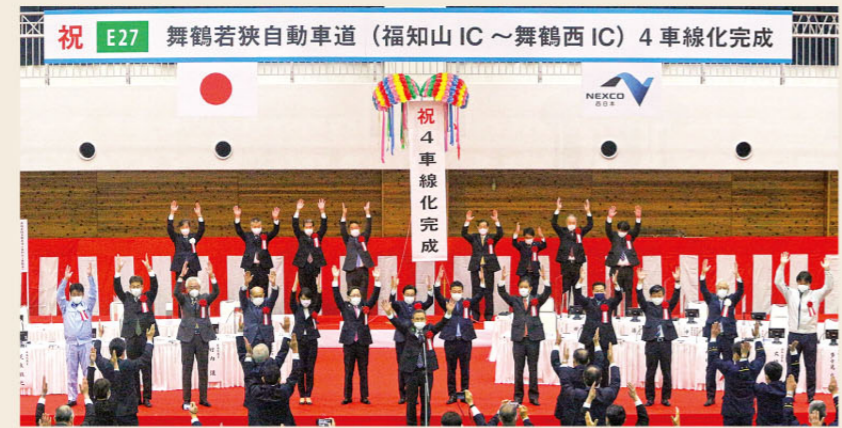
入港時には、クルーズ客船の船内見学会やふ頭、まちなかで

のおもてなしイベント、子ども達によるお見送りを実施するほか、市内ショッピングモールによる無料シャトルバスの運行や、新たに免税店舗の許可を取得する店舗が増えるなど、地域経済に寄与しました。

交通



▲舞鶴西 IC (ネクソコ西日本提供)



▲福知山～舞鶴西間 4車線完成式 (令和3年4月4日)

令和3年3月26日、舞鶴若狭自動車道福知山IC～舞鶴西IC間(約23km)の4車線化整備が完了しました。



平成27年7月18日、京都縦貫自動車道京丹波わちIC～丹波IC間、約19kmが開通し、久御山JCT～宮津天橋立IC約100kmが全線開通しました。



平成26年7月20日、舞鶴若狭自動車道小浜～敦賀JCT間約39kmが開通し、吉川JCT～敦賀JCT間約162kmが全線開通しました。

高速道路ネットワークの確立

舞鶴若狭自動車道と京都縦貫自動車道の全線開通により、北陸自動車道や名神高速道路、中国自動車道などと一体となって、北近畿の環状ネットワークを形成。舞鶴をはじめ京都北部地域にとって観光周遊ルートによる観光客数や観光消費額の増加につながっています。

また、京都舞鶴港の取扱貨物量の増加や企業誘致などによる物流拠点としての機能強化が図られたほか、災害・緊急時の代替ルートとして復旧・支援に寄与する道路としての役割も担っています。



▲由良川橋 (福知山～綾部間) (京都府提供)

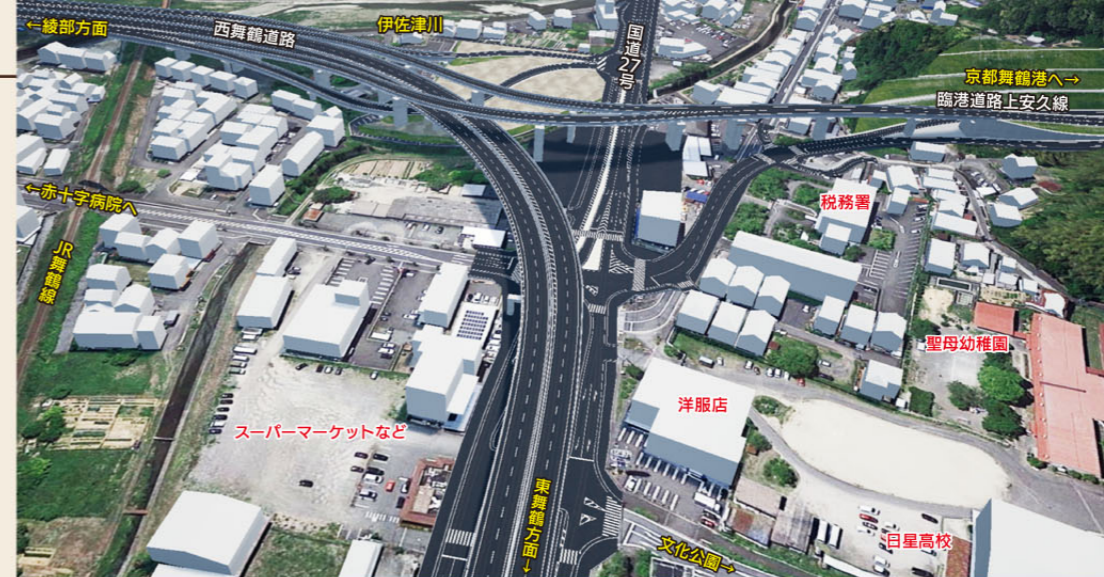
交通量の増加に対応した快適で、安全な走行の確保はもとより、観光などの人流や港湾を拠点とした物流など、丹波、丹後、若狭と京阪神都市圏とのさらなる連携強化、また、災害発生時における支援物資の緊急輸送などの安定した通行確保が可能となりました。

◇高架橋部
令和4年度より、国道27号に隣接する橋脚工事から着手しており、今後も施工が進められます。

◇起点部（臨港道路和田下福井線接続部）
令和4年度より、臨港道路和田下福井線接続部の橋梁工事に着手しており、今後も施工が進められます。

●臨港道路上安久線
京都舞鶴港から国道27号西舞鶴道路までが一体的に連結され、舞鶴西ICと結ばれることで、京阪神への交通アクセスの改善が図られ、港湾利用者の利便性向上と併せ、騒音の低減や安全性の向上につながる事が期待されます。

臨港道路の整備促進



▲完成イメージ図（舞鶴港湾事務所提供）



▲道路ネットワーク

西地区の南北方向の交通を国道27号と西舞鶴道路で担うことにより、市街地の交通量を振り分け、大手交差点などの交通の混雑緩和や安全性の向上につながることで、京都舞鶴港と舞鶴西ICとのアクセス性が向上し、物流の効率化が図れることが期待されます。

国道27号西舞鶴道路の整備促進

◇境谷トンネル（北向き上り線138m・南向き下り線221m）
上り線は、令和3年8月に掘削工事開始、令和4年7月に工事完了、万願寺トンネル（未着工）との間の山の斜面の掘削工事等は令和6年3月に完了します。

◇上安久高架橋橋脚
JR舞鶴線に近接する7基の橋脚について、令和3年9月に本体工事が着手され、令和5年12月に完了しました。



▲起点部橋梁完成イメージ図（舞鶴港湾事務所提供）



▲PBI橋脚工事（舞鶴港湾事務所提供）



▲「海舞鶴みなと橋」開通式（令和5年11月27日）

●臨港道路和田下福井線（海舞鶴みなと橋）
◇海舞鶴みなと橋（橋長66・4m）
埠頭間の移動時間短縮による物流の効率化が図れるとともに、西地区の東西方向の交通を国道175号と臨港道路で担うことにより、交通混雑の緩和など市民の利便性の向上につながる事が期待されます。
事業は、平成22年度から進められ、令和5年11月27日に、事業延長約320mの区間が、供用されました。



▲上安久高架橋橋脚工事（福知山河川国道事務所提供）



▲境谷トンネル坑口付近（福知山河川国道事務所提供）

主要地方道小倉西舞鶴道路の整備促進

東西市街地の慢性的な渋滞の緩和や連携強化による一体的なまちづくりの推進、歩道整備による安全・安心な通行環境の確保、老朽化対策や無電柱化による災害に強い道路ネットワークの確保、西舞鶴道路との接続などが期待されます。



▲新白鳥トンネル完成イメージ図（京都府提供）

●倉谷工区（320m）

◇二ツ橋交差点から倉谷交差点までの間を4車線化するほか、無電柱化や歩行者と自転車を分離した歩道の設置工事が進められています。
◇二ツ橋交差点付近から舞鶴赤十字病院前交差点付近で、道路の嵩上げと拡幅が概ね終了しました。
◇今後、二ツ橋交差点から舞鶴赤十字病院前交差点付近の無電柱化や倉谷西交差点付近での拡幅工事が進められます。



▲道路築造工事（倉谷工区）

●白鳥トンネル工区（約1.4km）

◇東西市街地の交通が集中する、市道北吸森線交差点から上安天台線交差点までの間を4車線化するほか、トンネルの新設や拡幅改良工事が進められています。
◇令和4年1月から本格着手した新トンネル工事は令和5年1月に貫通、新トンネルから清道交差点付近までの盛土工事も完了しました。
◇今後、トンネル坑内の舗装や道路築造工事が進められます。



▲新白鳥トンネル（仮称）貫通式（令和5年2月18日）

鉄道の整備促進

●京都丹後鉄道（北近畿タンゴ鉄道）

◇平成2年にJR宮津線から転換開業し、北近畿タンゴ鉄道（KTR）として運行。
◇平成27年にKTRが鉄道施設を保有・管理し、WILLER TRAINSが鉄道の運行を行う上下分離方式による運行を開始。鉄道名称を「京都丹後鉄道」に名称変更。



▲由良川橋りょうを走行する丹後あかまつ号

●交通系 IC カードの導入

◇令和3年にJR東舞鶴駅、西舞鶴駅に交通系 IC カード「ICOCA」が導入され、乗り継ぎの利便性が大きく向上。
◇舞鶴市公共交通ネットワーク会議によるICOCAの販売を行う普及促進事業や、ポイント還元を行う利用促進事業の実施により、多くの市民に利用が広がっています。



▲交通系 IC カード「ICOCA」



▲丹後あおまつ号



▲丹後くろまつ号



▲丹後くろまつ号内観



▲丹後の海

◇平成25年4月14日、数々の鉄道デザインを手掛ける工業デザイナー水戸岡鋭治氏のデザインによる観光列車「丹後あかまつ号」と「丹後あおまつ号」が運行開始。

◇平成26年5月25日、レストラン列車「丹後くろまつ号」が運行開始。

◇平成27年11月13日、海の京都をイメージした「丹後の海」が運行開始。

新たな公共交通の構築

●meemo

◇共助による地域共生社会の実現を目指し、令和2年度から、スマートフォンアプリを活用した住民同士の送迎サービス「meemo」の実証実験を実施。令和3年に鉄道・バス・タクシー・自家用有償旅客運送（meemo）による交通体系のあり方をまとめた新たな「舞鶴市地域公共交通計画」を策定。
◇既存の公共交通を補完する役割を担いながら、地域に根ざした新しい公共交通として、令和4年度から高野地域において本格運行開始。



国際交流

姉妹都市ナホトカ市(ロシア連邦)

ナホトカ市はロシア連邦沿海地方に位置する人口約14万人(令和3年現在)を有する都市です。昭和31年日ソ共同宣言の調印により、舞鶴市では引揚者の乗船と貿易で友好の深いナホトカ市の友好強化に寄与しようという機運が高まり、同36年日ソ間で

初めてとなる姉妹都市提携が実現しました。以来、今日まで、両市の間では「日本海を平和と友情の海に」を合言葉に、スポーツ交流団の相互派遣、少年使節団の交換など活発な交流を展開し、令和3年には、姉妹都市提携60周年を迎えました。



▲姉妹都市提携調印式



▲ナホトカ市青少年レスリング訪問団が来訪(平成26年)



▲ナホトカ市青少年ソフトボール訪問団が来訪(平成29年)



▲提携55周年ナホトカ市青少年文化交流団コンサート(平成28年)

友好都市大連市(中国)



▲友好都市提携調印式

大連市は中国東北部に位置する人口約608万7千人(令和4年現在)を有する港湾工業都市です。舞鶴市では、地理的な条件や引き揚げ等の歴史的な経過から、大連市との友好交流を望む市民の声が強くありました。昭和53年の日中平和友好条約の締結により、舞鶴市としても関係機関への働きかけや経済・貿易関係の交流を積極的に展開した結果、同57年友好都市提携が実現しました。以来、今日まで、両市の間では、各種訪問団の相互派遣、少年使節団の交換、友好の船の派遣など活発な交流を展開し、令和4年には、友好都市提携40周年を迎えました。



▲提携30周年記念式典でクレインズ'舞太鼓が和太鼓を披露(平成24年)



▲国際交流員による倉梯小学校での国際理解教室(平成27年)



▲舞鶴市・北九州市・伊万里市・金沢市の青少年が大連市を訪問(令和5年)



▲大連市少年使節団が来訪(平成30年)

日ロ沿岸市長会議を開催

平成25年、第24回日ロ沿岸市長会議・日ロ沿岸ビジネスフォーラムが舞鶴市で初めて開催。日ロ28都市の市長などの代表者や経済関係者など約120人が出席し、会議では「経済」と「観光」をテーマに、両地域の友好促進と文化・経済関係の強化に向けて議論しました。





▲舞鶴市青少年交流訪問団が伝統芸能を通じて文化交流 (平成 27 年)

浦項（ポハン）市は、韓国・慶尚北道の東海岸に位置する人口約51万9千人（令和4年12月現在）を有する工業都市です。平成23年に京都府とともに「経済交流等の推進に関する協定書」を締結後、本格的に交流を開始しました。

浦項市（大韓民国）



▲浦項市青少年交流訪問団が来訪 (令和 5 年)

同年に京都舞鶴港が「日本海側拠点港」の選定を受けて以来、国際フェリー航路の開設に向けた取組を実施。現在、舞鶴市では浦項市と中学生の相互訪問など、青少年交流を進めています。



▲姉妹都市提携調印式

姉妹都市ポーツマス市（英国）

ポーツマス市は英国南部の港湾観光都市で、人口約20万8千人（令和4年6月現在）を有しています。舞鶴市とポーツマス市は平成5年、赤れんが博物館の開館時にポーツマス市かられんがが贈られたことをきっかけに交流が始まりました。その後、小中学校の手紙の交換やボーイスカウトの交流など市民レベルでの交流が進み、同10年に姉妹都市提携が実現しました。特に舞鶴市の青少年がポーツマス市を訪れて行う英語研修では、これまでに参加人数が280人を超え、青少年が広い視野を持つきっかけとなつています。令和5年には姉妹都市提携25周年を迎えました。

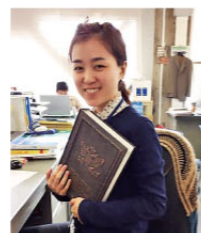
お世話になった舞鶴市国際交流員の皆さん (平成 25 年度～令和 5 年度)



平成 25 年度 李明熾さん (中国・大連)



平成 26 年度 崔銘哲さん (中国・大連)



平成 27 年度 鄒悦さん (中国・大連)



平成 28 年度 孫亜南さん (中国・大連)



平成 29 年度 李芳さん (中国・大連)



平成 30 年度 朴蓮姫さん (中国・大連)



令和元年度 曲振波さん (中国・大連)



平成 29～令和 3 年度 レ・アルトゥルさん (ウズベキスタン)



令和 4 年度～ アフメドフ・アシルベクさん (ウズベキスタン)



▲提携 20 周年ポーツマス市青少年訪問団が来訪 (平成 30 年)



▲舞鶴市の中高生によるポーツマス市での英語研修 (平成 27 年)



▲提携 25 周年記念 相互寄贈図書のお披露目式 (令和 6 年)



▲提携 25 周年記念 ポーツマス市名誉市長による講演会を開催 (令和 5 年)

ウズベキスタン共和国

ウズベキスタンは、中央アジアに位置しており、面積は日本のおよそ1.2倍、人口は約3440万人（令和4年現在）、戦後、約2万5千人の日本人が抑留された地で、平成3年にソビエト連邦崩壊に伴い独立した



▲スルタノフ氏が市役所を訪問（平成28年）

国です。同28年に首都タシケント市内の日本人抑留者資料館のスルタノフ・ジャリル館長が引揚記念館を訪問したことがきっかけでウズベキスタンとの交流が始まりました。その後、東京2020オリンピックにおけるウズベキスタンのホストタウンに登録され、令和3年の本大会直前には、柔道代表選手団が舞鶴市で事前合宿を実施。このほか、日本人抑留者が建設に携わったナボイ劇場の団員による公演や、現在では、令和元年にリシタン地方と交換した「人材育成交流に関する覚書」に基づき「産業技術」「介護福祉」「農業」分野の人材育成に協力しています。



▲東京オリンピック柔道代表選手団の市役所での見送り（令和3年）



▲東京オリンピック事前合宿（令和3年）



▲ウズベキスタンで茶の試験栽培をするため、苗木を準備（令和3年、4年）



▲舞鶴市代表団がウズベキスタンを訪問（平成29年）



▲伝統料理プロフなどの学校給食を味わうスルタノフ氏（平成30年）



◀ウズベキスタン人留学生が在学する近畿職業能力開発大学校京都校（令和4年）



▲柔道衣をウズベキスタンへ寄贈（平成30年）



▲ウズベキスタン文化芸術訪問団による舞鶴公演（令和元年）

引き揚げ

薄れゆく引き揚げの記憶を語り継ぐために

舞鶴市は、第二次世界大戦の終結後、13年間にわたり、66万人余の引揚者を温かく迎え入れました。そして昭和63年、多くの引揚者が祖国の第一歩をしるした平の地に、日本全国から寄付金を受け、引揚記念館を開設しました。

しかし、時代の経過とともに、引揚体験者の高齢化も進み、入館者が減少する中、有識者や体験者などによる「引揚記念館あり方検討委員会」の意見を踏まえ、平成24年から、市の直営として、学芸員を配置し史実の継承事業など創造的な事業にも取り組み始めました。

平成24年7月、風化しつつある引き揚げの史実を後世に継承

し、平和の尊さを広く世界に発信するため、シベリア抑留と引き揚げの関係資料の「ユネスコ世界記憶遺産」への登録を目指すことを表明し、まちぐるみで取組を進めました。



有識者会議の設置

平成24年12月、「舞鶴市ユネスコ世界記憶遺産有識者会議」（会長黒沢文貴（東京女子大学教授））を設置し、市が所蔵する約1万2千点の資料の中から、ユネスコ世界記憶遺産への登録基準である唯一無二の希少性や真正性、国際的な影響などの条件を兼ね備えている570点を厳選するなど、申請の準備を進めました。



署名活動の展開

平成25年、34の市民団体による「ユネスコ世界記憶遺産登録を応援する会」が発足し、署名活動が、市内はもとより全国や海外でも展開されました。そして平成27年8月には、目標の5万筆を達成しました。



音楽劇「君よ生きて」の舞鶴公演

「引き揚げ」がテーマで舞鶴やシベリアが舞台の音楽劇「君よ生きて」は、市が創作過程において、資料の提供や体験者への聞き取りなどを協力した作品です。平成27年7月に海外引揚70周年事業として舞鶴で公演され、その後、全国公演がスタートしました。

ユネスコ世界記憶遺産に登録が決定

平成27年10月10日、引揚記念館収蔵資料が「ユネスコ世界記憶遺産」に登録されることが決定しました。登録が決定したのは、「舞鶴への生還1945―1956 シベリア抑留等日本人の本国への引き揚げの記録」

と題された関係資料570点。午前2時ユネスコのホームページで登録の決定が確認されると、結果を待ち続けた市民100人や関係者らの喜びの歓声であふれました。



▲代表的な登録資料「白樺日誌」



全国巡回展の開催

引揚者を迎え入れた全国の引揚援護局開設地や引揚港としてその役割を果たした都市と連携し、全国各地で巡回展を開催しました。



開館30周年引揚記念館をリニューアル

引揚記念館では、戦争を知らない世代への発信力を高め、貴重な資料の保存と活用環境の充実を図るため、第一期工事として、セミナールームの増築や展示室の全面リニューアルを行い、平成27年9月にオープンしました。

その後、第二期工事として、ユネスコ世界記憶遺産に登録された貴重な資料を保存するための収蔵庫や企画展示室、抑留生活体験室を新設し、「次世代体験型施設」として開館30周年の開館記念日である平成30年4月24日にグランドオープンしました。



▲開館30周年に多くの市民や体験者が集う



▲グランドオープン後全景



▲抑留生活体験室

引き揚げの歴史と平和の願いを世界へ未来へ

10月7日を「舞鶴引き揚げの日」に

引き揚げやシベリア抑留の史実と引揚者を温かくお迎えしたまちの歴史を、次世代へ継承するとともに、平和に対する意識の高揚を目指すため、平成30年に、舞鶴港へ引き揚げ第1船が入港した10月7日を「舞鶴引き揚げの日」とする条例を制定しました。風化しつつある史実を見つめ直し、これからも平和への願いを舞鶴から世界へ、未来へ発信していきます。



国際博物館会議のプレ大会を舞鶴で開催

平成30年に世界の博物館関係者が集う「国際博物館会議（ICOM）舞鶴ミーティング2018」を商工観光センターで、翌年の京都大会のプレ大会として開催。本市から引揚記念館学芸員もユネスコ世界記憶遺産登録に向けた取組や若い世代への継承などについて事例などを発表しました。



教育旅行の推進

次世代への継承として、市内のふるさと学習や全国からの教育旅行の誘致に積極的に取り組んでいます。近年では、関西や関東方面からの中学校、高校の修学旅行も増えています。



秋篠宮同妃両殿下 引揚記念館にご来館

平成29年4月、秋篠宮ご夫妻が、八重桜が満開の引揚記念館を訪問され、シベリア抑留や引き揚げに関する資料、復

元された引揚棧橋をご視察されたほか、抑留や引き揚げ体験者3人と懇談されました。



▲復元した引揚棧橋をご視察される様子



▲抑留体験者安田さんの話をお聞きになる両殿下

「次世代への継承」から「次世代による継承」へ

引揚記念館ではNPO法人「舞鶴・引揚語りの会」が語り部活動で活躍しています。平成29年度には学生の語り部も誕生。現在では、中学生から社会人までが次世代の語り部として「引き揚げの史実」のほか、「舞鶴のおもてなし」や「平和の大切さ」を教育旅行での同世代交流などで、未来へ語り継いでいます。



▶館内を説明する学生語り部

文化・スポーツ

文化を楽しみ創造するまちづくり

文化や芸術活動に参加することは、私たちの日常に楽しさや生きがい、喜びをもたらす。時に生きる力を与えてくれます。市では、平成28年4月に文化振興条例を施行、平成29年6月には文化振興基本計画を策定し、文化振興施策を総合的に推進しています。計画に掲げる基本理念「すべての市民が文化を楽しみ、創造できるまち 舞鶴」 「まちを誇りに思い、愛着が感じられる文化都市 舞鶴」の実現を目指し、市民や地域、団体等との協働により、全ての市民が文化芸術に出会う機会の創出、市民文化創造活動の活性化に取り組んでいます。



▲舞鶴市展



▲アート・プログラム・デリバリー事業



▲文化の見本市



▲アートスタート事業



▲公共ホール音楽活性化支援事業

田中彩子さん「舞鶴市文化親善大使」に就任

令和3年、文化のさらなる発展と創造力を育み、都市としてのブランド力の向上につなげることを目的に「舞鶴市文化親善大使」を本市出身で世界的に活躍されているソプラノ歌手田中彩子さんに委嘱しました。文化親善大使の活動を通じ、子ども達に夢や希望をもって生きることの素晴らしさを伝えるほか、市民が文化に触れる機会を増やし、文化力の育成を図ります。



総合文化会館大ホールがリニューアル

総合文化会館は、昭和58年10月に竣工し、築30年が経過したことから、長寿命化と機能向上を図るため大ホールの大規模改修を実施。天井の耐震化対策を行うとともに、舞台設備の改修など音響改善を図ったほか、1階全座席を更新し、よりゆったりと鑑賞できるように整備し、トイレの洋式化や客席と舞台をつなぐ花道の新設など施設全体

のバリアフリー化を実施して、平成27年6月にリニューアルオープンしました。また、市民会館は昭和43年の開館以来、文化や芸術の拠点として利用されてきましたが、築後46年が経過したことで老朽化が進み、施設の継続した運営が難しいことから平成28年2月末に閉館しました。



▲リニューアル後の大ホール



▲閉館した市民会館



▶ T-BOLAN コンサート

初めて最後のシングル・ベストツアー開催

舞鶴ミュージックコミッション

音楽・エンターテイメント業界と連携し、地域の魅力を活かした新たな観光「ミュージックツーリズム」を実現するため、平成30年5月に市と市観光協会、市商工会議所などで舞鶴ミュー

ジックコミッション(MC)を設立。都市部に集中する音楽フェスやライブ、合宿などを地方都市に誘致するなど、地域に新しいエンターテイメント文化の潮流を創ります。

舞鶴フィルムコミッション

美しい赤れんが建造物や古くからのまち並み、漁師町の情緒が残る吉原地区等、他の地域でもなかなか目にするできないロマンティックなまち並みが多く残る舞鶴。地域の誇りである素晴らしい風景や歴史文化などを映画やドラマ等の撮影に活用してもらえよう平成14年に立ち上がった舞鶴フィルムコミッションを通じ、21年間で382もの作品が舞鶴市で撮影されました。映画等のロケ地や宣伝発信することで舞鶴のPRになるだけでなく、素晴らしい作品の舞台となったということがふるさとへの愛着の醸成につながる重要な取り組みとなっています。



映画「ラーゲリより愛を込めて」の瀬々敬久監督と舞鶴引揚記念館の学生語り部とのトークセッションのほか、公開記念事業として舞鶴と東京で連携展示会などを開催しました。



▲高等学校軽音楽コンテスト近畿北陸大会
舞鶴では5回の開催、北陸と近畿の高校生が交流。



▲赤れんが博物館前広場スペシャルライブ(令和5年9月)
南野陽子さんらによるコンサート。舞鶴をテーマにしたオリジナル曲が市に贈呈されました。



▲舞鶴西港で開催された15,000人が集う大規模音楽フェス(令和5年4月)



▲東郷邸(天外者)



▲赤れんがパーク・国3棟(日本のいちばん長い日)



▲田井漁港(海賊とよばれた男)



▲北吸トンネル(わたしの幸せな結婚)

歴史文化遺産を活かしたまちづくり

市では歴史文化遺産を保存活用するためのアクションプランとして「舞鶴市文化財保存活用地域計画」を令和3年に策定しました。この計画に基づき、市では舞鶴が有する豊かな歴史文化遺産を地域のタカラモノとして育み、市民が誇りを感じる心豊かな社会を形成するため、「歴史文化の魅力を探り、学び、活かし、引き継ぐ」ことを基本理念として多様な歴史文化遺産を関連付けながら保存活用するまちづくりを進めていきます。

文化財の保護・活用

舞鶴市指定文化財の件数は、建造物や絵画などの美術工芸品、民俗文化財、天然記念物など123件(令和5年4月1日現在)。国指定・登録等文化財45件と府指定・登録等文化財87件と併せ、市全域に多くの文化財が点在しており、かけがえのないこれら文化財を全市民の財産として保護しています。



▲市指定文化財糸井文庫錦絵(安寿姫と対王丸)



▲まいづる細川幽斎田辺城まつり大名行列



▲平成29年に市の文化財に指定された「明倫小学校正門」

郷土資料館

リニューアルオープン

西総合会館内に平成28年リニューアルオープンしました。舞鶴の歴史文化遺産の特徴の一つ、海との関わりを示す鏡や玉類の祭祀道具、縄文時代から平安時代までの考古資料、日本海海運を示す北前船の展示、そして城下町田辺の歴史資料のほか、丹後にまつわる錦絵などのコレクションである糸井文庫なども展示しています。また、現在まで伝承されている「松尾寺の仏舞」や「城屋の揚松明」などの祭礼芸能も含め舞鶴の豊かな歴史文化遺産の魅力を紹介しています。



▲リニューアルした郷土資料館

赤れんがの空間を活用

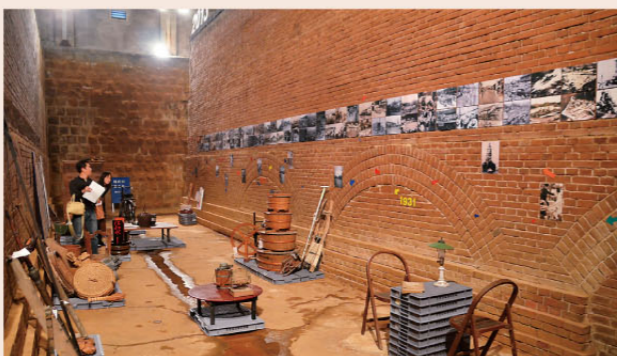
平成20年に現存する赤れんが倉庫12棟のうち、7棟の倉庫と1棟の附(つきたり)の8棟が国の重要文化財に指定され、平成24年にこれら文化財を活用した交流拠点として舞鶴赤れんがパークがグランドオープン。文化芸術の創造の場としても活用されています。



▲サマーイルミネーション(平成26年～平成29年)



▲田主誠「心の旅」版画館(平成25年～平成29年)



時間旅行博物館

北吸浄水場配水池で開催された舞鶴の過去、現在、未来を巡る市民参加型のアートプロジェクト。



ジャズライブ

平成3年から20年間開催された赤煉瓦ジャズライブ。その後は赤れんがSummerJazz+などが開催されている。ジャズピアニスト山下洋輔さんは過去7回公演を開催。

多世代交流施設「まなびあむ」オープン

市民病院跡地利用方針に沿って、市民の健康増進と多様な交流・にぎわいの拠点として、令和3年7月に多世代交流施設「まなびあむ」がオープンしました。まなびあむの2・3階には公共施設である「まなびあむ」や新舞鶴・三笠地域包括支援センターを整備。

1階にはJA京都にのくに舞鶴東支店と同彩菜館、カフェのBistro&、4階には宿泊機能も備えた若者等交流施設「GATEWAY MAIZURU」が入っている多世代交流施設です。





赤れんが倉庫群をはじめ、本市を全国に知っていただく絶好の機会にもなっています。平成25年10月に市制施行70周年記念事業として創設された「舞鶴赤れんがハーフマソン」は、国の重要文化財である赤れんが倉庫群をはじめ、海上自衛隊の護衛艦や哨戒ヘリコプターを間近に見ながら疾走できる全国でも例のないユニークなコースが魅力であり、市民をはじめ全国各地から多くのランナーが参加し、潮風と声援を受けながら駆け抜けました。

赤れんがハーフマソンの開催

スポーツの普及や交流は、健康増進や心身の充実だけでなく、本市を全国に知っていただく絶好の機会にもなっています。平成25年10月に市制施行70周年記念事業として創設された「舞鶴赤れんがハーフマソン」は、国の重要文化財である赤れんが倉庫群をはじめ、海上自衛隊の護衛艦や哨戒ヘリコプターを間近に見ながら疾走できる全国でも例のないユニークなコースが魅力であり、市民をはじめ全国各地から多くのランナーが参加し、潮風と声援を受けながら駆け抜けました。

全国高校総体を契機に

平成27年夏に各競技の高校日本一を決める「全国高等学校総体大会（インターハイ）」が近畿で開催され、本市ではレスリング競技が実施されました。また、インターハイのプレ大会として、同年春に、「ジュニアクイーンズカップ・レスリング選手権大会」が開催されました。



▲インターハイ

また、平成26年に文化公園体育館の大規模改修にあわせてアリーナにエアコン設備を導入し、大規模大会の開催等に向けた環境整備を図るとともに、令和3年には、公共施設としては数少ないレスリング場をオープンしました。



▲レスリング場

「舞鶴レスリングクラブ」の設立

「世界にタックル」を合言葉に、舞鶴や近隣市の幼年から中学生までの子ども達が、個々の目標に向けて楽しく活動しています。



▲日本遺産 MONTH（非公開ツアー）

文化庁の「日本遺産」に認定

平成28年4月、海軍鎮守府開庁から軍港都市として同様の歴史を持つ横須賀市、呉市、佐世保市とともに申請した「鎮守府 横須賀・呉・佐世保・舞鶴」が日本近代化の躍動を体感できるまちの歴史ストーリーが文化庁の「日本遺産」に認定されました。

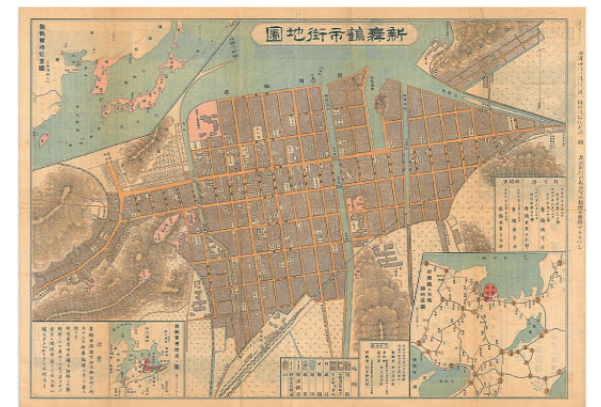
「日本の20世紀遺産20選」に選定

平成29年12月、文化遺産保存分野の専門家等で構成される日本イコモス国内委員会が選ぶ「日本の20世紀遺産20選」に「舞鶴の海軍施設と都市計画」が選ばれました。舞鶴鎮守府の設置に伴い建設

された赤れんが倉庫群や水道施設などの海軍施設と新たに造成された東地区市街地の格子状の街路が、人類の歴史の重要な段階を物語る遺産として認められたものです。



▲北吸浄水場配水池内部



▲大正6年の新舞鶴市街地図（現東地区市街地）

世界で活躍された皆さん

平成 26 年～令和 5 年における、舞鶴市優秀スポーツ賞の「特別賞」及び「特別優秀賞」の受賞者（敬称略）



LA CLASSIC YU-J (浜)
YOSSHI. (愛宕)

フリースタイルフットボール競技
【大会名・成績】◇スーパーボール 2022…ダブルルーティン部門優勝◇スーパーボール 2023…ダブルルーティン部門準優勝 など



亀井美尚 (上福井)

水泳競技
【大会名・成績】2018 年度日本マスターズ水泳短水路大会…200m 男子 85 歳～89 歳個人メドレー 世界新記録 3 分 48 秒 20



鍵本彩夏 (城北中出身)

水泳競技
【大会名・成績】第 10 回アジアエイジグループ選手権大会…平泳ぎ 50 m 優勝、100 m 優勝、200 m 優勝、4×100 m メドレーリレー 優勝



井上愛里沙 (西舞鶴高出身)

バレーボール競技
【大会名・成績】◇令和 3 年度天皇杯・皇后杯 全日本バレーボール選手権大会 …優勝・MVP ◇FIVB バレーボールネーションズリーグ 2023…7 位 など



内田颯夏 (明倫小出身)

レスリング競技
【大会名・成績】◇2022 年 U17 世界選手権…女子 57kg 級 優勝 ◇2023 年 U17 世界選手権…女子 57kg 級 優勝



内田菜楓 (明倫小出身)

レスリング競技
【大会名・成績】2022 年 U15 アジア選手権…女子 36kg 級 優勝



森脇花乃 (城北中)

レスリング競技
【大会名・成績】2023 年 U15 アジア選手権…女子 58kg 級 優勝



谷優希 (西舞鶴高出身)

野球競技
【大会名・成績】第 4 回 WBSC U-23 ワールドカップ…優勝



▲人工芝グラウンド

伊佐津川運動公園全面オープン
平成 30 年春に「伊佐津川運動公園」が全面オープンしました。園内には、府北部では初めてとなるフルサイズのサッカー場として利用できる人工芝グラウンドをはじめ、土の多目的グラウンドやクレーテニスコート、芝生広場などを整備。さまざまなスポーツを楽しむだけでなく、交流・憩いの場としても気軽に利用できるようになりました。



(c) KYOTO.P.S

京都サンガ F.C. のホームタウンへ加入
令和元年 9 月に、日本プロサッカーリーグ（Jリーグ）の京都サンガ F.C. のホームタウンに加入。スポーツの普及や地域住民の健康増進、青少年の健全育成や地域活性化などを目的に、ホームタウンデーの開催や試合観戦のための応援列車の企画運行、サッカー教室などの取組を進めています。



京都ハンナリーズの公式戦が舞鶴で
平成 26 年～28 年に、男子プロバスケットボールリーグ（Bリーグ）の京都ハンナリーズのシーズン公式戦が舞鶴文化公園体育館で行われ、プロスポーツ選手の対決を間近で見ることができました。また、エキシビジョンゲームとして市内の小学生チームの試合も行われたほか、オープニングセレモニーやハーフタイムイベントなどもあり、会場を訪れた皆さんも一体となってゲームを盛り上げました。

奈良ドリーマーズとの連携協定

令和 4 年 4 月に、バレーボールリーグ（Vリーグ）の奈良ドリーマーズと、スポーツの普及・発展や青少年の健全育成、地域社会の発展を目的に包括連携協定を締結し、サブホームタウンとなりました。文化公園体育館を会場としたホームゲームの開催や、バレーボール教室等の取組を進めています。



東京 2020 オリンピック聖火リレー

令和 3 年 5 月 25 日、26 日、東京 2020 オリンピック聖火リレーが、京都府立京都スタジアム（亀岡市）で行われました。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、公道での走行を避け、閉鎖空間となるスタジアムでの代替開催。舞鶴市からは 6 人が参加し、2 日間で約 180 人がオリンピック聖火をつなぎました。

